

笑顔かがやく光っ子

みんなで育てる光っ子

学校便り

第321号  
平成26年1月8日

練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木 隆志

## 輪になって紡ぐ

校長 鈴木 隆志

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、どうぞよろしく願いいたします。

2013年の「今年の漢字」に選ばれたのは「輪」です。2020年東京五輪（オリンピック・パラリンピック）の開催決定や富士山の世界文化遺産登録、相次ぐ自然災害への支援の輪などが、選出の理由に挙げられました。「輪」は円形の物の意味ですが、人のつながりにも例えられます。つながり、関わり、触れ合い、結び付きによって「輪」が生まれます。人の輪はとても大切です。今年も、「チーム八小」「チーム光っ子」で輪になって、思い(心)を紡いでいきます。

光っ子たち一人一人の思い(心)は、「今年のめあて」にも表れます。『一年の計は元旦にあり』と言います。物事は初めの計画や準備が大切であり、一年の計画（めあて）は年の初めの元旦に立てるとよいということです。光っ子たちは、どんなめあてを立てたのでしょうか。もちろん、子供たちサイドの思いだけではありません。親としても、学校としても、こんな子供（人間）に育ててほしいという思いがあります。子供の思い、親の思い、学校の思いを形にしていくこと、それが「紡ぐ」ということだと考えています。

知的障害者の雇用で知られる日本理化学工業(株)は、チョーク等を製造・販売する会社です。会長の大山泰弘氏は、人間の究極の幸せは、「1つは、人に愛されること。2つは、人に褒められること。3つは、人の役に立つこと。そして最後に、人から必要とされること。この4つである。」と説いています。また、ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサさんは、「人間にとって最大の不幸は、自分が誰からも自分は必要とされていないと感じること」と語りました。

光っ子たちは、誰一人として必要とされていない子はいません。つながり、関わり、触れ合い、結び付きという輪の中で、どんな形であっても人の役に立ち、互いに必要とし合っているのです。例を挙げればきりがありません。校庭に転がっているボールを黙って片付けてくれる子、廊下階段の正しい歩き方を呼びかけるポスターのモデルになってくれた子、マラソン大会で大きな声で応援をしてくれた子、落とし物を拾って届けてくれた子、困っている友達に「どうしたの？」と声をかけてくれた子、授業中の友達の発言にうなずいてくれた子、ありがとうと言えた子・ありがとうと言ってもらった子、…。どの子も、他者との関係の中で人の役に立ち、必要とされているのです。キーワードとして挙げると、思いやり、協力、協調、共感、受容、親切、友情、共生、などです。それは、光八小の教育目標の「仲良く助け合う子供」につながります。あと二つの教育目標である「すすんで学ぶ子供」「健康で明るい子供」が個々の力を伸ばしていくための指針であるのに対し、「仲良く助け合う子供」は、『輪になって紡ぐ』光っ子たちにはピッタリの目標であると言えます。今年はこの重点にしてよりよい光八小を築き上げていこう、私の今年のめあてが定まりました。

前述の大山泰弘氏は、障害者雇用について今もなお頑張り続けています。マザー・テレサさんは貧困から人々を救うために一生を捧げました。二人に共通していることは、人生での様々な人との出会いを大切に、自身の進むべき道を「信念」という強い思い(心)で切り拓いていったことだと思います。偉大な先輩たちの姿には遠く及びませんが、私も二人の思い(心)をつないでいきます。それは、光っ子たちに本当の幸せを分かってもらうことです。人の役に立ち、人から必要とされる子になることです。本年も、皆様方のお力添えを、どうぞよろしく願いいたします。